

地の雑草の生態的特性が異なる可能性も考えられ、今後注目すべきである。

## 引用文献

古谷勝司・片岡孝義 1970. 数種除草剤の幼苗期の水稲およびノビエに対する殺草力の温度変動. 雑草研究 10. 28-32.  
姫田正美 1970. 水稲種子の発芽最低温度に関する一見. 日作紀 7, 63-71.  
五十嵐弘・笹原健夫 1990. 水稲種子の高・低温域における発芽特性の品種・生態種間差異. 山形大学紀要(農学) 11. 205-217.  
一前宣正ら 1991. 数種水田除草剤におけるフロアブル剤と粒剤の除草効果に及ぼす土壌の種類, 湛水深, 漏水および温度の影響. 雑草研究 36. 338-342.

加持集三ら 1998. 暖地水田におけるノビエ(*Echinochloa* spp.)の発生生態とメフェナセットの最適処理時期の関係. 雑草研究 43, 210-222.  
片岡孝義・古谷勝司 1972. 水稲稚苗移植栽培における除草剤の除草効果変動要因. 雑草研究 13. 54-58.  
中山包 1966. 「農林種子の発芽」内田老鶴園新社, 東京, pp.63-65, 90-91.  
野田健兒ら 1965. 除草剤の作用力の温度による変動. 雑草研究 4, 127-131.  
農林水産省 2015. 全国農業地域別・都道府県別累年統計表(平成21年産~25年産)(2015年2月13日公表)政府統計の総合窓口(e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/>  
森田弘彦 2016. 雑草ヒエの葉齢推定指標と

しての積算有効温度. 植調 49. 310-318.  
村上利男ら 1987. 寒地における水田雑草の出芽の温度反応とその地域性. 雑草研究 32. 112-122.  
李弘拓・田口啓作 1969. 稲種子の低温発芽性に関する研究. 第1報 低温発芽性の品種間差異および親作物の栽培環境の影響. 北海道大学農学部邦文紀要 7, 63-71.  
内野彰ら 2002. 水田地温による寒冷地のタイヌビエ(*Echinochloa oryzicola* Vasing.)の葉令進展及び発生終期の推定とその除草剤散布指標としての応用. 東北の雑草 2. 34-42.  
行本峰子・浜田虔二 1985. 「作物の葉害」全国農村教育協会, 東京, pp.141-143.

## 田畑の草種

### 薄、芒(ススキ)

イネ科ススキ属の多年生草本。野原で生育し、ごく普通に見られる。秋の七草の一つ。関西だと8月末頃から穂を出し始める。出穂直後の穂は赤みを帯び、花すすきとも呼ばれ、開花、受精後は芒が白く目立ち、1茎の花穂がまとまり、動物の尾のように見えるので尾花とも言う。

吉田拓郎が歌う「旅の宿」。浴衣を着た「きみ」が尾花の簪を挿している。頃は秋。この簪は「花すすき」か「尾花」か。歌詞にあるとおり「尾花」の簪なら、9月も下旬以降だろうか。熱燗徳利を二人の間においていることから、もう涼しくなってきたのだろう。

ところで、ここでの「宿」は、丹後半島や城崎の宿なのか、白浜から那智勝浦の宿なのか。南か北かで薄の出穂の時期も違って来るが、筆者の思いからは、この「宿」は熊野の湯の峰温泉の宿であって欲しい。山に囲まれた谷筋のこぢんまりとした温泉地。その「宿」の2階の

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

出窓を開けて「上弦」の月を眺める。その上弦の月は12時に上り18時に正中し、24時に沈む。湯の峰温泉の谷筋は南北に開ける。眺められる月は正中時前後の僅かな間。日の入り時刻を考えると、9月では18時はまだまだ明るく、月を眺めるには10月以降になる。上弦の月は旧暦で毎月7日、これを今年に当てはめると旧暦9月7日が10月7日になる。薄の簪はもちろん尾花である。

今年(2016年)の10月7日、ところは湯の峰温泉。ときおり雲がかかるが月を眺めるのを邪魔はしない。浴衣姿の「きみ」が出窓に座って、湯上がりの火照った体を川風でさます。目の前の川向こうから採ってきた薄の穂を髪に挿す。川の堤では、上弦の月が微かに浮かび上がらせる薄の群落が、白くなった穂を風に揺らせる。二人の間には熱燗の徳利が・・・